

県立中央病院連携室だより

- ともに歩む地域医療 -

●発行月 令和4年4月
●発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)
●URL <https://chuo-hp.jp/>

「地域医療連携推進の基本方針」

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHSによるDr.Direct Call
5. 24時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

令和4年度のご挨拶

岩手県立中央病院の院長の宮田です。連携室だよりをお読みいただきありがとうございます。皆さまお元気でお過ごしでしょうか。いつも当院の運営にご協力いただきありがとうございます。

人と人との距離を離し、心の繋がりも分断しかねないコロナ禍で、岩手県の医療提供体制を整えるために必要なのは、むしろ「つながること」だと痛感しながら2年半経過しております。

昨年度、いくつかの院内感染のために病院機能を落とさざるを得なくなったこと、心からお詫び申し上げます。当院が機能低下した時に他院にどのくらいご負担をおかけしたかということからも助けていただいた他の医療機関のありがたみを痛感し、また当院の役割と責任を実感した次第です。

今後、この感染症とどのような付き合い方をしていくことになるかは、これからの変異株の動向や国の対応方針にもよりますが、100年に一度のパンデミックを体験することで、医療や社会は感染症に対する緊張感を持つことになり、人々の衛生観念、消毒、体温測定、様々な情報手段など、多くのシステムは進化しました。感染症と闘う医学は、医学の原点でもあり、感染制御学の発展とともに自分自身も多くのことを学び直した気がします。ワクチンや抗ウイルス薬の開発も以前とは比べ物にならないくらいに速いものでした。今後も、その都度考え、またその考えをお伝えしながら適切に対処していけたらと思います。

医療に対する期待は人によって様々です。今現在の激痛や苦しさを今すぐ取り去って欲しい、身体の不具合を解消してほしい、自分の身体に起こっている異変について理解できるように検査して説明してほしい、将来の健康上の不安に対して為すべきことを明確にして欲しい等々。時代の移り変わりとともに、その期待は質も量も方向性も変化してきていることを感じます。これからも、この変化を見据えて当院に期待される機能を果たすべく、かかりつけ医の先生や、他の医療機関や介護施設等と連携していきたいと思います。4月から当院の救急医療部は、「救命救急センター」として県の認可もいただきました。より多くの急性期の苦痛を解消すべく、これからも「つながり」を大切に運営してまいりたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

院長 宮田 剛



乳腺・内分泌外科の紹介

乳腺・内分泌外科長

宇佐美 伸

いつも大変お世話になっております。我々「乳腺・内分泌外科」について紹介させていただきます。当科の主たる対象疾患は乳癌をはじめとした乳腺疾患全てと甲状腺・副甲状腺疾患です。

当科は2004年10月に「乳腺外科」として開設されました。開設時には初発乳癌手術症例は年間85例でしたが、年々症例数は増加し2007年には150例に達しました。初めて200例を超えたのは2016年で、以降現在まで年間200～250例の乳癌手術を行っており、東北地方では有数の施設となっています。これは偏に、先生方が貴重な症例を我々に多数御紹介してくださった証であり、この場をかりて心から御礼申し上げます。

また、内分泌外科領域については2012年4月より渡辺道雄(内分泌外科専門医)が着任し、それ以前は年間10例程度であった甲状腺癌手術が近年は50例程に増加しており、適応のある良性疾患に対して内視鏡補助下頸部手術(VANS)も実施しています。そして、科の名称も「乳腺・内分泌外科」と改称されています。

当科には現在5名の医師が在籍しています。前述の渡辺道雄(平成2年卒)、私(平成11年卒、乳腺指導医)、梅邑明子(平成14年卒、乳腺専門医)、佐藤未来(平成22年卒、乳腺専門医)、滝川佑香(平成30年卒、後期レジデント、現在育休中)です。乳腺領域を専門とする4名のうち私以外の3名は女性医師ですが、これは全国的な趨勢であり将来的に当科は女性医師が主役となって輝いていく診療科であろうと思っています。

最近の乳癌診療は、新規薬剤の登場とその副作用への対応、個々の薬剤の位置づけの変化、遺伝性乳癌卵巣癌症候群の遺伝学的検査等、本領域に専門特化している我々ですらついていくのが容易でない程、大変な勢いで進歩しています。これは治療選択肢が増えることにより治療成績が向上している明らかな「進歩」には違いないのですが、一方では病名告知後



の患者さんに対して膨大な情報と選択肢を説明し、一つの方針を決定しなければならないという難しさを日々感じています。以前からチーム医療の重要性については謳われていましたが、それが喫緊の課題となりました。患者さんの意思決定に関しては外来看護師が支援し、薬物療法に関しては昨年度より曜日限定ですが診察前に薬剤師が外来で患者さんと面談し、治療状況の評価と支持療法の提案等について専門職としての大きな役割を果たしています。

当院の最大の強みは病理科、放射線治療科、形成外科、循環器内科、呼吸器内科をはじめとした各領域の複数のスペシャリストが院内に揃っていることだと思います。当科としては最新の治療は遅滞なく導入すること、治療方針については主治医が独善的にならずカンファレンスで合意が得られた治療を実施するようにしています。患者さん個々の状況に応じた多職種での関わりに関するシステムの構築はまだ改善の余地があると考えており、今後の課題です。そして次世代を担う人材の育成を当科では特に大切にしております。患者さんにとっても、これから専門分野を決める初期研修医や見学医学部生にとっても魅力のある診療科を理想に努力したいと考えておりますので、今後も引き続き当科にお力添えを頂きたく存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ER病棟運用開始から 1年を振り返って・・・

ER病棟 看護師長補佐 大下 咲子

岩手県立中央病院 救急病棟(以後ER病棟)は、昨年4月より運用を開始しました。この一年を振り返りながら、運用状況をご紹介させていただきたいと思います。

以前は当院の救急部門には病床がなく、夜間入院が必要になった際は、各診療科の病棟が受け入れを行っていたため、緊急入院が重なると、病棟側は病床調整に苦慮しておりました。また、それにより初療エリアの滞在時間が長くなり、他の救急患者の診療が滞るという救急側の負担と、なにより患者への負担が大きくなってしまいう現状がありました。

途中COVID-19患者対応のため、稼働率に変動はありますが、運用開始からER病棟の稼働率は右肩上がりに上昇しました。(図1、図2)

また、救急外来は経過観察室を設けており、初療エリアの効率化を図るための対策として、経過観察室への移動をスムーズに行う必要性があり10月から救急外来看護師と連携しER病棟看護師が観察室業務を行うためのプロジェクトチームを立ち上げました。

試行錯誤しながらではありますが、各エリアの所要時間の短縮のために現在も取り組み中です。(図3)

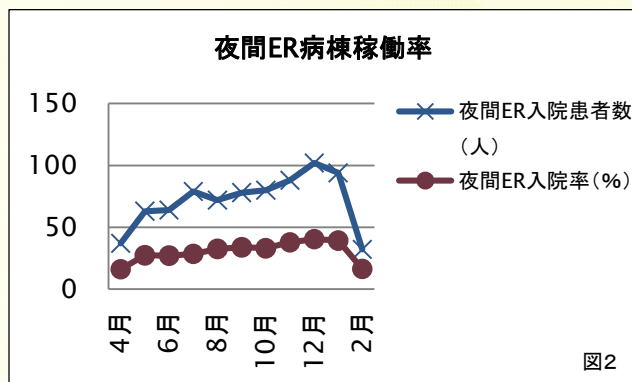
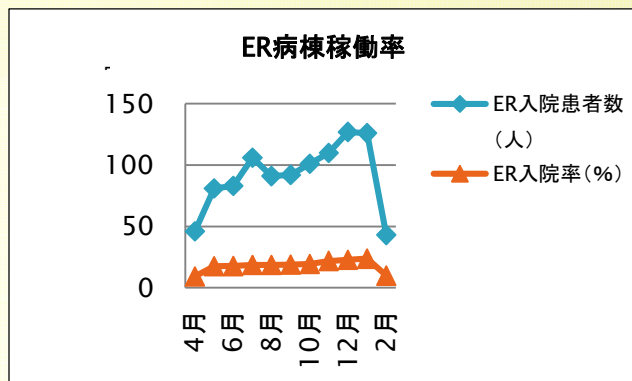


図2

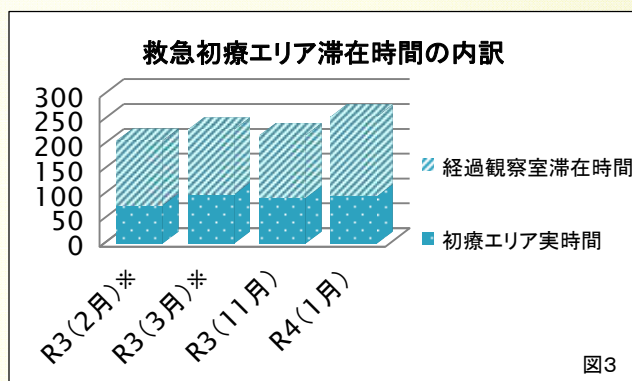


図3

そしてCOVID-19患者の受け入れについても、感染管理認定看護師と感染係を中心にシュミレーションを重ね、手順の整備、スタッフ教育を行い知識や技術を得た上で対応し、現場の中での感染も発生せず、安全に運用できました。

運用においてCOVID-19患者も含め様々な疾患の患者の受け入れを行う上で、17人と少ない人数のスタッフが知識や技術、アイデアを持ち寄り、模索を繰り返した1年間でした。

救急外来スタッフと助け合い、患者転棟先のスタッフより夜間の入院受け入れに対し感謝のことばをいただきながら運用することができたことに感謝いたします。

次年度はセンター化に向けてスタッフ一同さらに邁進していきたいとおもいます。

今後とも救急センター、ER病棟をどうぞよろしくお願いいたします。



COVID-19患者受け入れの様子



**入退院支援部門
看護師長
武智 満**

地域病院とのつながりを大切に、患者・家族が安心して入退院出来るお手伝いをさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



**退院支援主任看護師
吉澤 周子**

4月から地域連携室の退院調整を担当させて頂くことになりました。患者様・ご家族様の思い、医師・看護師・医療スタッフの思いを繋ぎ、退院後も安心した生活が送れるようお手伝いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療福祉連携室



**入院支援主任看護師
茅平 清子**

今年度から入退院支援センターに配属となりました。入院生活が安心安全に送れるようお手伝いさせていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



**入院支援看護師
川上 ひとみ**

今年度から配属となりました。安心して入院生活が送れるようお手伝いさせていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

NEW FACE



**主任医療社会事業士
畠山 菜緒美**

今年度より配属となりました。患者さん、ご家族が心穏やかに過ごせるよう、共に考えるお手伝いをできればと思います。お気軽にご相談ください。



**医療社会事業士
遊佐 綺乃**

今年度から配属となりました。患者さん・ご家族のお気持ちに寄り添ったお手伝いができるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

医療相談室



**医療社会事業士
奥寺 溪花**

今年度から配属となりました。患者さん、ご家族が安心して相談できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

新たなメンバーと共に、
今年度もどうぞ
よろしくお願いいたします。